

文章の始まりが見えないときは下に少しスクロールしてください。



熊野神社と徳翁寺

現在の川上町は、むかし後山田といわれた。昭和14年戸塚区が横浜市に編入された時、後山田村から川上町となったのである。

一方、前山田村は現在の前田町で前と田の合成語だと思われる。

いまでも、土地の古い人は川上町を単に山田と呼んでいる。かく言うミスターKも川上町というより山田という方がしっくりしている。

ミスターKの生家は、品濃町の奥であったが眼の前の小山を登ると、

そこは山田であった。

当時（昭和30年代ごろ）の山田は川上川に沿った田んぼと小高い場所の畑、それに山林だけの純農村で店屋は一軒もなかったのが殆んど行ったことが無く身近なところでありながらよく知らない町であった。

その中、唯一山田と接点があったのが熊野神社である。

前述のとおりミスターKの生家の前の小山を越え最初に遭遇したのが熊野神社で祭の時などお囃子の音の家まで届いていたのを思い出す。

当時この近在の神社では殆んどがお囃子を持っており村の若い衆にとって祭や獅子舞などが腕の見せ所の晴れ舞台であった。

熊野神社の祭では旅芸人の芝居や映画などが出し物として催され父や母に連れられてよく見に行ったものである。

参道には、おでん屋・綿菓子屋・飴屋・射的屋など数軒の露店が出て50円程度の小使い銭をもって出かけたものである。

その点は品濃の白旗神社・平戸の白旗神社なども同様の風景であった。

なお熊野神社の由来などは大分前下郷の熊野神社の項で述べたのでここでは省略する。

次に徳翁寺であるが昔は山の中の古びた荒寺だったような、かすかな記憶がある。今それ以上のことは思い出せない。

徳翁寺は川上第一団地に上る坂の途中にある寺で今では茅葺の立派な山門と堂々たる本堂、手入れの行き届いた庭などこの近在でも屈指の名利である。

創建した上杉謙信の始祖上杉乗国に因んで山号を乗国山という曹洞宗の寺である。

乗国の父が「尾張・小牧原の戦い」で戦死したので、その菩提を弔うため乗国が大永元年に建立したと伝えられている。

上杉乗国なる人物の横顔は不明であるが上杉謙信の始祖としてるところから室町時代から戦国時代にかけて関東管領職にあった上杉氏の末裔だと思われるが定かではない。

徳翁寺は往時、新橋の観音寺・永谷天満の別当貞昌寺・矢部の雲林寺・そのほか川崎に二か寺、東京に三か寺の末寺を持っていたと伝えられている大寺だったようである。

また寺には開山使用の火防せの袈裟なるものが保存されていて、新築した家に持って行って火事を防いだという話もある。

（以上「戸塚の散歩みち」参考）

話は余談になるが昔の火防せについて火事の延焼を防ぐためとして女性が使用している赤い腰巻を屋根の上で振ると火が移ってこないという迷信じみた話がこの近在に残っている。

この話をしてくれた村の先輩（故人）は元陸軍の兵隊でノモンハン戦にも従軍したという強者で戦地での話をよくしてくれた。

その一つを紹介すると尾籠な話で恐縮ながらノモンハンの冬は冷下50度くらいになるそうで小便をするとすぐツララになってしまうので手頃な棒でツララを叩き落としながらする。あるいは大便も逆さツララになって便槽から突き立っているので用便の前にこの逆さツララを棒で壊して用を足したそうである。

この話を聞いた時には腹の皮がよじれるくらい笑ったものである。